

令和2年2月26日

川西市議会議長

秋 田 修 一 様

厚生文教常任委員長

江 見 輝 男

委 員 会 報 告 書

本委員会に付託の事件は、審査の結果、別紙のとおり決定したので、会議規則第101条の規定により報告します。

厚生文教常任委員会における審査の経過と結果について（審査日：令和2年2月21日）

1. 議案第1号 令和元年度川西市一般会計補正予算（第4回）

議案の概要

国の令和元年度補正予算による財源を活用し、市内の小中学校及び特別支援学校におけるICT環境を整備するため、通信ネットワーク整備にかかる費用を計上するもの。

質疑の概要

(1) 第1表 歳出

① 第10款 教育費

問 通信ネットワーク整備後のスケジュールとしては、本年10月から小学5・6年生と中学1年生に1人1台タブレットを配置して活用を開始し、その後、他の学年について、年次的に対象を拡大することであるが、本年4月から開始されるプログラミング教育について、通信ネットワークの整備完了時期との整合といった観点から、具体的な授業がどのように想定されているのか伺いたい。

答 プログラミング教育については、算数や理科の教科書に示されており、併せて総合的な学習の時間でも取り組んでいく予定である。プログラミング教育には、PCを使わずに思考を育む「アンプラグドプログラミング」、PCを使ってプログラムを作成し画面上で動きを確認する「ビジュアルプログラミング」、作成したプログラムでロボット等の実物を動かす「フィジカルプログラミング」の3つの段階があるため、タブレット機器導入前から効果的に授業を進めることは可能と考えている。

問 機器類の整備に加え、これを活用して充実した授業を行うことが重要となるが、4月からのプログラミング教育開始に向けて、教員研修をはじめとする対策をどのように考えているのか伺いたい。

答 プログラミング教育の必修化は従前から予定されていたため、小学校では「プログラミングカリキュラム等作成委員会」を設置して授業内容を検討してきた。ここでは各種研修を行うとともに、本年3月中に同委員会が作成した資料を各校へ配付し、これをもとに4月からの授業に向けた準備を進めることとしている。

答 今年度は小学校1校、中学校1校、川西養護学校で先行的にタブレットを導入して実践を積み重ねている。その結果を先般の教育実践発表会で発表し、各校への情報共有を図ったところであるが、十分とは考えていないため、さらに研修を重ねることなどにより、しっかりと準備を整えたいと考えている。

問 本案可決後の入札・契約手続きに向けて仕様書の作成等が進められると考えるが、現在の機器類選定等にかかる作業状況を伺いたい。

答 現時点においては、校内LANの使用をはじめ、採用するOS等について、メリットとデメリットを精査しているところであり、さらに、整備に向けては各校の現状を把握しながら、本市にとって最善の選択ができるよう十分な検討を加えていきたい。

問 高価な機器類を各校で保有することとなり、タブレットの持ち帰りなどに関する管理方法をはじめ、情報モラル教育を含めたリスク管理について、マニュアル化などの慎重な検討が必要であると考えているが、本年4月までに対策が可能なのか伺いたい。

答 本年1月に、国から本構想の提示があり、即座に対応しなければならない状況となっているが、市教育委員会と各校間の協議を密にし、必要な事項を丁寧に確認しながらルールづくりを着実に進めたいと考えている。

また、タブレット端末の管理方法については、先行実施している自治体で持ち帰りなどを認めている例もあるが、様々な面でリスクがあるため、本市では当面認めない方向とする考えである。

問 先進自治体では、校舎内だけでなく体育館などのあらゆる場所で通信環境が整備されている例を確認しているが、本市における学校内の使用可能範囲に加え、容量や通信速度をどの程度で想定しているのか伺いたい。

答 本市では、学校における現状のインターネット通信環境では、使用場所に制約があったことも考えられるが、本事業では、現在の有線LANを全て更新するほか、Wi-Fiアクセスポイントを各教室及び体育館にも各1台の設置を想定しており、校内の全ての施設で滑らかに動画が見られる状態になるよう整備する予定である。

問 全国一斉に導入へ向けて動き出すこととなるが、新型コロナウイルスによる中国からの部品調達が懸念される状況にある中で、予定している10月1日からの機器導入が遅れる心配はないか。

答 ICT機器の部品は中国製が多いため影響が懸念されることから、現在検討中のOS3社（グーグル、マイクロソフト、アップル）に対して、先日、確認したところ、現時点の見通しとしては対応可能との回答を得ている。ただし、今回は、全国

的な動きであることなどを踏まえると、多少の遅れも想定しながら準備を進めるしかないと考えている。

問 今回、国の要請に対して本事業への対応を迅速に判断されたことによるメリットは理解するが、一方では、機器調達はもとより、セキュリティ対策などを含めて短時間で体制を整えなければならないリスクも懸念される。

そこで、万が一、導入が遅れた場合でもプログラミング教育に影響がないよう対策を想定されているのか伺いたい。

答 二次元バーコードの掲載など、近年は教科書自体がICT機器の活用を視野に入れていることに加え、来年度から開始されるプログラミング教育では、タブレットがなくても授業が可能であるが、使用することで一層、学習の広がりが期待できるため、今回の早期導入を判断したものである。したがって、タブレットの導入が遅れる事態となった場合に、プログラミング教育で機器類が必要となる場合には、既存のパソコンルームを活用することにより対応は可能と考えている。

(2) 第2表 繰越明許費補正・第3表 地方債補正
なし

特記事項 配布資料あり(国の補正予算を活用した学校通信ネットワーク整備業務及び教育用タブレット端末整備について)

審査結果 原案可決(全員賛成)